

家庭の役割を 考える



最近の新聞・テレビの報道には、凶悪事件に関するものが増えています。それも、若い世代による凶悪事件が横行し、暗たんたる気持ちを抱かざるをえません。神戸や福岡の事件では、被害者は幼児や少女です。つまり、力の弱いものがねらわれるという傾向にあります。幼い命がこうも簡単に奪われる、人の命がこうも粗末に扱われる、というのは、なぜなのか。また、犯罪者と言われている者が、性格異常によるものとは限らず、普通の青年によるものである、というのも、逆に空恐ろしさを増すものであると言えます。それも、近くに住む、本来ならば親しく付き合い助け合う立場にある「隣人」によるものであるということであればなおさらです。

ここには、人生を奪うことに対する痛みもなければ、自分の人生を失うことへの恐れもない。まさに、生きていくという感覚の希薄さがうかがえます。彼等には、自分が築き上げてきた時間、あるいは、自分の居場所がないのでは

うか。何かあるか分からないが何かやってみようとか、失敗したりしてまた何とかなるか思ったり行動したりすることが、若者らしいしなやかさや強さであると考えます。

このような最近の社会状況の中で、家庭の役割という点に目を移して考えてみると、例えば、人間として守らなければならないことは親がいつも率先してお手本を示しながら子どもに守らせる、理屈でなく行動で教える、そうした教育の反復・繰り返しで人間社会のルールや約束ごとを身に付けさせていくことも必要だと思ふのです。

昔から言われている言葉に、「可愛くば、二つ叱って三つほめ、五つ教えて良き人にせよ」というのがあります。「良き人」をつくるには、両親が体ごとぶつかり、叱ったりほめたりしながら成し遂げていく、これが大切です。そこでは、父親と母親が自己の役割を自覚すること、特に、父親の役割は現在忘れられがちなので、あらためて再確認する必要があります。

もつという点、父親は、家庭の中にあって、社会のルールや制度を体現していく存在であるといえます。このことによって、子どもは知らず知らずのうちに、父親が体現している社会とか制度という人間集団におけるルールを身に付けていくのです。父親が子どもの教育に無関心である限り、いくら母親が孤軍奮闘しても、子どもの社会性を培い人間性を育む上では、どうしても片手落ちになってしまふことは否定できません。

我々の時代は、たくさん家族の中で、自然に社会や生活のルールを身に付けていくということがありました。お年寄りの優れた教養や趣味、生活ぶり等にふれ、そのことが後々の人間形成に役立つということもありました。しかし、核家族が進んだ現在、そのようなことも難しくなっています。

多くの家庭が、様々な問題や困難をはらんだ教育的社会的風潮にさらされる中で、子どもの自由な成長とか価値観の多様化などの主張をもっともらしい理由として、過度の放任主義が蔓延し、人間の自己規制の基本を身に付けるべき幼児期の教育が適切になされていない傾向が強いように思います。

このように、人間形成の基盤である家庭の崩壊が、基本的な生活習慣のルールが十分身に付くことを妨げていること、さらに、戦後五十年間というものの、一貫して家庭の教育的役割が無視され続けてきたことが、改めて考え直されなければならぬ時にきていると思えます。

今こそ、みんなで助け合っているという共同体が崩れつつある中で、新しい幸せとか新しい人間関係を作り上げていくことが大切であると思ふのです。

都留の街でボランティアアウォークを行います。このアウォークはあしながアウォークとい、ガン遺児たちの進学を支援するものです。ガン遺児であるというだけで進学を断念している遺児たちの進学の夢を支えてください。方法は簡単です。まず、気軽にあしながアウォークに参加してみてください。

ボランティアアウォークに 参加しよう

日時 11月9日(日) 午前9時30分受付
10時(スタート)

場所 都留市役所前

参加費 500円(傷害保険料ほか)

問合先 平井のり子(都留文学部3年)
☎(43)0924

※当日車はご遠慮ください。

人権擁護委員に

小林一夫さん
山本正子さん

十月一日付をもって法務大臣から人権擁護委員の委嘱が発令されました。

小林一夫 四日市場1057-1
山本正子 上谷4丁目8番8号

能力開発講座

改善の仕方

日程 12月1・3・5・8・9日
時間 午後6時〜8時
定員 10名
受講料 1000円

パソコン講座

表計算ソフト初級(1回目)

日程 12月4・5・8・9・11・12・15・16日
時間 午後6時〜8時50分
定員 20名
受講料 2100円

受付期間 各講座とも開講日の7日前まで。ただし、定員になれば締め切ります。

問合先 都留能力開発センター

☎(43)8911

寄付(敬称略)

次の方から寄付がありました。
重度身体障害者のために

河村愛子

金五〇、〇〇〇円

